

# NIPPONIT チャリティ駅伝 支援金 2025年1月～11月の事業報告

今年は、東日本大震災・福島第一原発事故から14年目となりました。時間の経過とともに、人々の被ばくに対する意識は薄くなっています。しかし、まだまだ危険は身近にあります。

被ばくを科学的に可視化し、子どもたちの健康と暮らしを守るために、ご支援金150万円を役立たせていただきました。みなさまの温かいお気持ちに、心から御礼申し上げます。

## 支援金で行った事業

### ■ たらちねこどもドック 2025年1月～11月の利用人数 118名

たらちねこどもドックは、子どもの健康診断です。検診を受けたお子さんに、医師が結果を記録し「こどもドック手帳」を手渡します。未成年のおさんは、保護者が手帳を管理しますが、成人となり自分自身で健康管理をする年齢になると、自分で検診の予約をし、手帳を持参して来院する事故当時未成年だった人たちもいます。父母から子へ手帳を引き継ぐとき、子の健康を守り続けた親子の絆を感じる一場面もあります。手帳は、病気の時にも役立ちますが、その子が、いかに健康であったかの証明にもなります。被災地で暮らし成長する子どもたちにとって、自分が健康であることを示す科学的な結果も大切です。

#### こどもドックの様子



この手帳は、単なる健康記録ではありません。  
みなさんの命と未来は、わたしたちの願いです。  
わたしたちも、そうして育てられてきました。  
みなさんも、つぎの子どもたちへ  
バトンをつないで下さい。  
これは、わたしたちからの、きまやかなメッセージです。

2021年4月  
たらちねクリニック 院長 藤田 隆



- 視力検査
- 聴力検査
- 内部被ばく検査
- 問診
- 甲状腺がん検診
- 血液検査
- 心電図



### ■ 甲状腺検診 2025年1月～11月の利用人数 139名

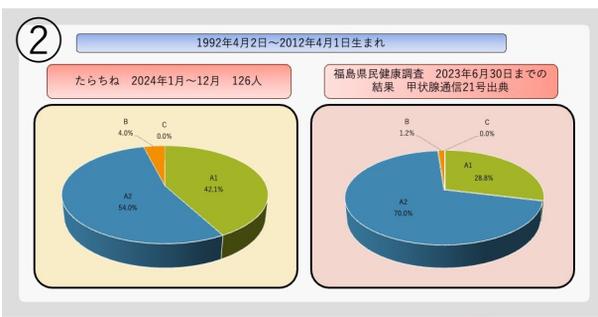
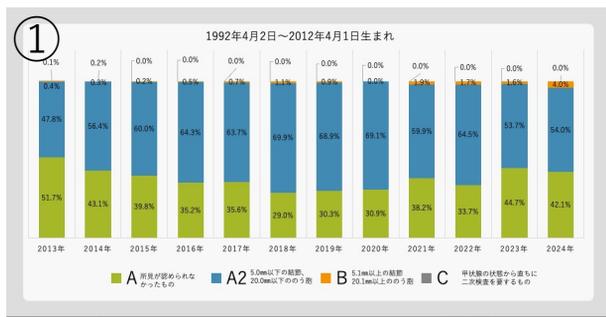
2011年に原発事故が起きたとき、私たち被災者は、放射能の汚染状況をリアルタイムに知ることができませんでした。国やメディアによる「ただちに健康に影響はない」と繰り返されるアナウンスの中で、何をどうしたら命を守ることができるのかわからずに右往左往しました。初期被ばくが健康に影響することを知ったのも、ずいぶんと時が経ってからでした。

「あのとき」汚染された水道水を使って料理をし、子どもに食べさせてしまったと後悔し、心配する母親もたくさんいました。たらちねでは、そんな心配を受けて、被災地に出張し、臨時の診療所を開設して甲状腺検診を行っています。

事故当時未成年だった子どもたちも、今は大人になり親になっている人もいます。

自分の子どもと一緒に検診を受けたり、子ども時代には親に検診を受けさせてもらえず、自分の健康を密かに心配し続けていたけれども、自分で申し込んで検診を受けられるようになったので受けにきた、など、子どもたちの成長や状況もさまざまです。

- ①は、検診開始の2013年から2024年までの経年結果です。B判定が増えていることが気になります。
- ②は、検診を受けた人の数は違いますが、結果の割合に大きな違いはありません。



# 防災ブック「Hahaの書」の作成と配布

2025年1月～11月の配布数3,415冊

東日本大震災以降も、地震や水害など大きな災害が発生しました。そして、今後も南海トラフ大地震などの大規模な災害が起きることが予測されています。それらを踏まえ、2025年は、これまでの私たちの被災経験を学びにした防災活動を行いました。その中で、特に資料の少ない原発事故防災のための防災ブックを作成し、子育てする保護者のみなさんに「原発事故防災の知識」を共有しました。子どもを守るための「知っていれば役に立つ」内容です。



「Hahaの書」は、原発事故防災のために作りました。本の中のエピソードは、2011年3月に起きた東電福島原発第一原発事故で被災したお母さんたちが、実際に経験したものです。災害即日本で生き抜くために、被災者の経験を学んでください。そして、同じ悲劇が繰り返されないよう備えてください。

もくじ	防災	風の流れを知って	6	子ども	SNSには要注意	50
		風や雲に注意	8		自家栽培の野菜には用心	52
		放射線は透過する… 手作りのシェルター	10		守るべき命！そして思いやりを大切に	54
		2週間は無事もりできるよ	12		被災者の感情に向き合うには①	56
		安定ヨウ素剤	14		被災者の感情に向き合うには②	60
		安定ヨウ素剤がない時は？	16		人々の心と心の距離	62
		水漏れも汚染する	18		母乳をおけるのが不安になったら	64
		ガソリンは満タンに	20		子どもを守るために備わっていた母の母	68
		車のエアコンは内部循環に 換気扇は止めて	22			
		避難所でも屋内避難を	24	子ども	子どもと被災	72
		避難は100m先を目指して	26		乳幼児のみや	74
		避難計画を身につけて行動を	28		子どもの心を守るために知っておくべきこと	76
		必ずマスクを	30		子どもを助けるまじしよう	78
		ベトを被ばくから守って	32		子どもの話をよく聞きましょう	80
		ウィッグ	34		「ごっこ遊び」を見守りましょう	82
		ベルト	36		一度は一緒に寝ましょう	84
		外に出るとき 荷を差す？	38		「ごわい」と言うときはこわくないやり方を	86
		5階には落ちた新聞紙	40		赤ちゃん泣きを受けとめてあげましょう	88
		ホットスポットに注意	42		「手当て」をしてあげましょう	90
		行動の記録	46			

## 風の流れを知って

原発事故で拡散した放射性物質は、風に乗って移動します。被ばくを避けるためには風の流れを知ることが大切です。

福島第一原発事故のとき、多くの人々が「遠くに逃げるのが大事」と考え、放射性物質が飛ぶ風下の地域に避難してしまいました。風の流れを考えて避難することを知らず、被ばくし続けたことを、後になって後悔しました。



## 安定ヨウ素剤がない時は？

海藻や海苔でも大丈夫。特に昆布は安定ヨウ素の含有量が高いです。駄菓子屋さんのおしゃぶり昆布も代わりになります。



以上